

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和8年度 病害虫発生予察情報について (送付)



このことについて、発生予察注意報第1号(サツマイモのムツスジアシナガゾウムシ)を発表します。
なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。

病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 サツマイモ
- 2 病害虫名 ムツスジアシナガゾウムシ
- 3 対象地域 大隅地域
- 4 発生量 多



技術情報第7号

5 注意報発令の根拠

- (1) サツマイモほ場でのムツスジアシナガゾウムシの発生は、令和7年度までは鹿屋市、志布志市、曾於市、大崎町の4市町で認められていたが、令和8年4月30日及び5月1日に109筆を調査した結果、東串良町が加わり計5市町となり、確認地点は拡大している。(令和8年度技術情報第7号、令和8年5月15日付、二次元コード参照)。
- (2) 令和8年5月8日及び22日に鹿屋市、志布志市、大崎町の調査地点において各5筆のサツマイモほ場(被害が多いほ場外縁の畝)を調査した結果、50株当たり成虫数は5月8日が4.8頭、5月22日が4.6頭と同程度認められた(表1、図1)。
- (3) 鹿屋調査地点では成虫数、被害は横ばい、志布志調査地点では成虫数、被害がやや増加し、大崎調査地点では成虫数、被害が減少している(表1、図1、2)。なお、各調査地点ともほ場により成虫数、被害のバラツキは大きい。
- (4) 本種の摂食行動は、気温が10℃以上になると示すことがあるとされ(吉武、2025)、日平均気温では3月上旬に到達することから、植え付けの早いほ場では、早い時期から食害を開始したと推測される。
- (5) 本種の繁殖行動は25~33℃で活発になるとされ(吉武、2025)、①平年の日平均気温の25℃到達時期は6月下旬頃であること、②この時期以降は第一世代成虫の発生時期に重なることから(図3)、7~8月の第一世代成虫に対する防除は重要である。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 越冬成虫や次世代成虫のほ場での発生は長期間続くことから、農薬散布後にも再侵入や発生があると考えられる。このため、農薬を散布した後もほ場を見回り、成虫(図4)や食害(図5、6)を認めたら、追加防除を行う。
- (2) 茎葉の繁茂したほ場では、成虫の発生や食害などを見落とさないように、新梢や葉柄への食害を確認する。特に茎(蔓)に膨らみが認められたら(図7)、幼虫が発生しているため、その後の成虫の発生に備え、成虫や食害を認めたら、直ちに防除を行う。
- (3) 農薬で防除する場合は、本種に登録のある農薬もしくは植物防疫法第29条第1項の適用を受けている農薬(表2)を使用し、使用方法を遵守する。
- (4) 農薬を散布する際は、ほ場周辺の作物へ飛散しないように、注意して行う。

(5) サツマイモほ場周辺のヒルガオ科雑草を除去し、環境整備に努める。なお、国内ではフジ、ヨモギで、県内ではカンキツ、チャ、ピーマン、バレイショ、ゴボウ及びキクでの食害が認められている。

表1 サツマイモほ場におけるムツスジアシナガゾウムシの発生状況（令和8年度）

市町名	調査地点数	5月8日					5月22日				
		調査ほ場(筆)	被害確認(筆)	虫数/50株(頭)	被害新梢率最高(%)	被害新梢率平均(%)	調査ほ場(筆)	被害確認(筆)	虫数/50株(頭)	被害新梢率最高(%)	被害新梢率平均(%)
鹿屋市	1	5	3	2.0	32.0	13.2	5	5	2.2	38.0	14.8
志布志市	1	5	5	4.4	62.0	29.6	5	5	8.6	52.0	35.2
大崎町	1	5	5	8.0	82.0	35.6	5	5	3.0	10.0	6.0
3市町	3	15	13	4.8	82.0	26.1	15	15	4.6	52.0	18.7

注1) 調査地点：令和6年にムツスジアシナガゾウムシの発生を認めた地点（市町の全域を示すものではない）

2) 調査ほ場：5/8と5/22は同一ほ場において、被害が多いほ場外縁の畝を調査

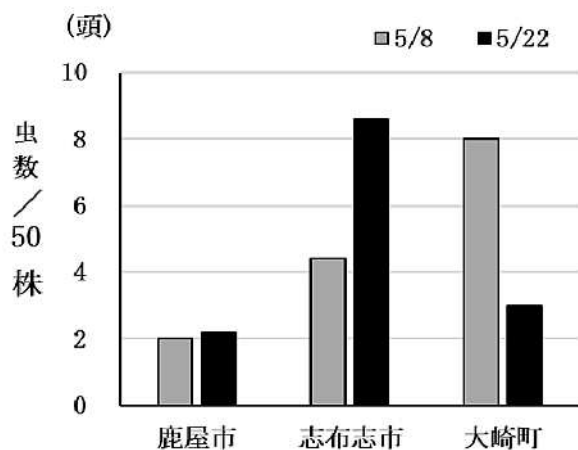


図1 サツマイモほ場でのムツスジアシナガゾウムシ成虫の発生状況（令和8年度）

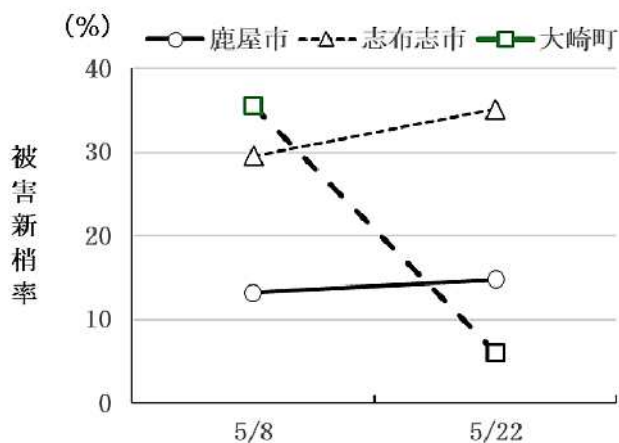


図2 サツマイモほ場での新梢へのムツスジアシナガゾウムシによる被害状況（令和8年度）

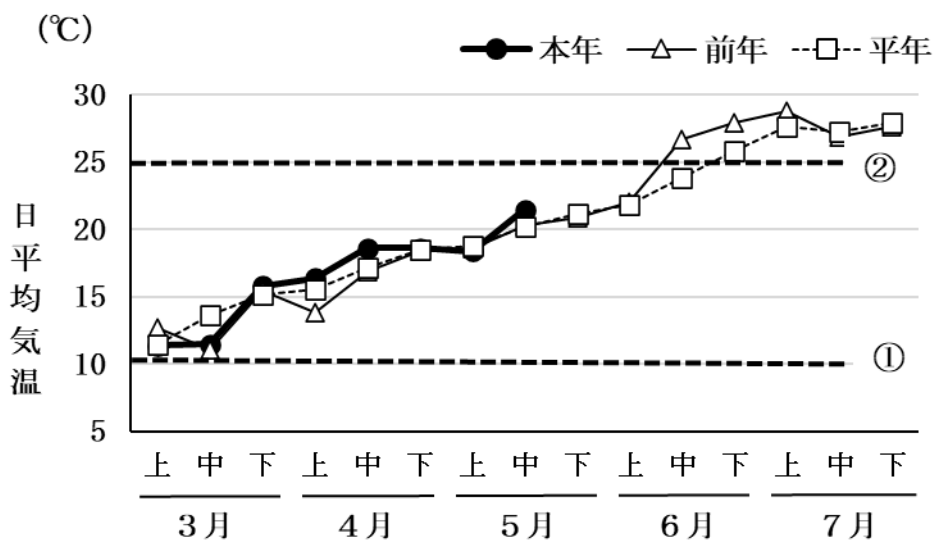


図3 日平均気温の推移（鹿屋）

注1) 気象データ：気象庁アメダス観測データ

2) 図中の①：ムツスジアシナガゾウムシが摂食行動を示すことがある温度

図中の②：ムツスジアシナガゾウムシの繁殖行動が活発になる温度帯（25～33°C）

表2 サツマイモ栽培でのムツスジアシナガゾウムシに使用可能な農薬

商品名	IRAC コード	希釈倍数	使用時期	使用回数	適用病害虫									
					ムツスジアシナガゾウムシ	アブラムシ類	タバココナジラミ	コナジラミ類	ヨツモンカメノコハムシ	ハダニ類	ナカジロシタバ	ヒルガオハモグリガ	ハスモンヨトウ	イモコガ
コテツフロアブル	13	2000	収穫前日まで	2回以内	○				○	○			○	
スミチオン乳剤	1B	1000	収穫7日前まで	5回以内	○	○			○					○
グレーシア乳剤	30	2000~3000	収穫7日前まで	2回以内	○			○		○	○		○	
ベネビアOD*	28	4000	収穫7日前まで	3回以内	○*	○		○		○	○	○	○	

注1) 登録内容：令和8年5月25日現在

2) *：植物防疫法第29条第一項の適用により使用可能な農薬を示す



図4 ムツスジアシナガゾウムシ成虫
(体長：約9mm)



図5 食害を受けた新梢（新芽や葉柄）



図6 食害を受けた株(矢印：成虫)



図7 幼虫が寄生し、膨らんだ茎（蔓）

8 参考文献

- (1) 吉武 啓 (2025) :ニッチェライフ vol.13 108~123.